

■伊藤忠兵衛(初代) (伊藤忠)と(丸紅)の前身となる(紅忠)を創立し、多くの品種の輸出入を行なう商社へと発展させた。

いとうちゅうべえ

天保改革弾圧1842＝ 近江(滋賀県)の代々呉服太物卸小売商を営む家の次男に生れた。

阿部正弘首座1845＝ 3歳：

尊徳報徳論・1851＝ 9歳：

万次郎帰国・1852＝10歳：兄とともに、初めて近村へ行商に赴き、

ペリー来航・1853＝11歳：

五ヶ国条約・1858＝16歳：伯父に伴われて、近江麻布の持下り業を開始、

安政の大獄・1859＝17歳：\*長崎に行商して利益を取めるとともに、貿易に目覚め、以後、独力で商売にあたり、

桜田門外変・1860＝18歳：

中国・四国・九州にわたって販路を拡大し、巨利を得た。

薩長同盟・1866＝25歳：下関で<第二次長州征討戦争>に遭遇した際、稼いだ金を近江に届けるのに才覚を発揮、結婚もした。

明治維新・1868＝26歳：

戊辰戦争終・1869＝27歳：

廃藩置県・1871＝29歳：西国持下り業を兄に譲り、

学問のすすめ1872＝30歳：\*大阪に店舗をかまえ、呉服太物商を開き、商号を<紅忠>と称した(伊藤忠商事・丸紅商店の前身)。

明治6年政変 1873＝31歳：

大久保暗殺・1878＝36歳：この頃には、輸入羅紗・ビロードの取り扱いを開始、

明治14年政変1881＝39歳：

新体詩抄・1882＝40歳：京都に縮緬店を開設、  
松方デフレ時代にも現金取引主義をとって事業を拡大、

秩父事件・1884＝44歳：屋号を<伊藤本店>と改め、

内閣発足・1885＝43歳：\*伊藤海外組を組織して、本店を神戸に、支店をサンフランシスコに置いて、刺繍・苳・雑貨などの輸出を開始し、ラシヤ・毛織物の直輸入を試みる。

国民之友始・1887＝45歳：

この間、多くの会社の設立に参加、特に近江銀行では専務から頭取として経営の再建にも当たり、また三十四銀行頭取となった。

帝国憲法発布1889＝47歳：

足尾鉍毒始・1891＝49歳：豊郷村の村長となって、2年間郷里のために尽力、

郡司千島探検1893＝51歳：大阪安土町に<伊藤糸店>を開設して、綿糸卸業に進出するとともに、複式簿記を採用。

日清戦争始・1894＝52歳：<日清戦争>が始まると、大本營のある広島に赴いて実情調査、大阪での綿布軍需を確信して利益を上げ、

白馬会・1896＝54歳：日東合資会社を設立して、中国から棉を輸入し綿糸を輸出する貿易を始める。

西本願寺派の敬虔な信徒として、仏教的経営理念をもって働き続けたが、

肝臓癌を病んで自らの命運を悟り、

教科書疑獄・1902＝60歳：\*別れの大宴会を開いて、

日比谷公園・1903＝61歳：没した。